

◆環境省主催の省エネ・照明デザインアワード2014◆ 福井大学病院A棟が「優秀事例賞」を受賞

3月6日に東京都内で行われた「省エネ・照明デザインアワード2014」において、福井大学医学部附属病院A棟(新病棟)の照明設備が、公共施設・総合施設部門の「優秀事例賞」を受賞した。患者さんに優しく癒やしを与える快適性や、医療行為が安全・安心に行える機能性、省エネ性、デザイン性に優れていると評価された。



A棟外観(夜景写真)



医学部附属病院のA棟は、全館にLED照明器具を採用し、手術室・ICU等では、業務に必要な明るさの確保はもちろんのこと、最新の医療機器に電磁的影響を与えることがないよう、国際規格に準じた照明器具や、環境清浄度を満足させるクリーンルーム対応の照明器具を採用した。また、病棟には、診療・処置等に十分な明るさを確保しつつ、間接照明や暖色系の照明を採用し、患者さんが入院生活を快適に過ごせるような空間環境を創出している。さらに、高効率のLED照明器具を人感センサー等による制御にして、省エネ・省CO2・省コストを図り、地球環境に優しく、かつ病院経営に貢献することを目指した。

信州大学

山岳科学研究所がキックオフシンポジウムを開催

信州大学先鋭領域融合研究群 山岳科学研究所は発足から1年を迎えるのを前に、「山岳アカデミア」による環境変動の解明と地域創生」と題するキックオフシンポジウムを3月15日、松本東急インにて開催した。

山沢清学長からの挨拶後、先鋭領域融合研究群の濱田州博研究群長より、研究群の構成・概要について説明があった。

第一部「山岳アカデミアの発展」では、文部科学省研究振興局学術研究助成課の鈴木敏之課長を招き、研究費をめぐる現状と課題について話された。また、加藤正人山岳科学研究所所長より研究所の概要と、研究所が目指す地域連携という大学機能強化の新規モデルである山岳アカデミアについて説明があった。第二部では、原山智山岳科学研究所副所長より、伏在活断層と最近の地震活動について、泉山茂之陸上生態系研究部門長からは地域ぐるみでの鳥獣害対策について、さまざまな事例紹介を交えつつ話があった。

学内外関係者を含め80人を超える参加者があり、市民の参加もあったことからテーマに対する関心の高さが伺えた。

最後に、総合討論として、長野県庁林務部、松本市役所危機管理部・耕地林務課・山岳観光課・西部農林課、環境保全研究所、環境省松本自然環境事務署、中信森林管理署より問題提起や研究所への期待・アドバイス等があり、盛況のうちに終了した。



文部科学省 鈴木学術研究助成課長